

「未来を築く子どもの学力向上協創プロジェクト」 平成26年度第2回推進会議の概要について

「未来を築く子どもの学力向上協創プロジェクト」の平成26年度第2回推進会議を、平成26年10月1日(水)に開催しました。

第2回推進会議には、7名の委員のうち5名の方々にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして国立大学法人三重大学教育学部教授の山田 康彦氏にご出席いただきました。

なお、第2回推進会議の概要は、以下のとおりです。

「未来を築く子どもの学力向上協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

※敬称略、50音順、カッコ書は役職

安藤 大作 (三重県PTA連合会 顧問)
石川 正浩 (サポーターいっちゅう 事務局次長兼広報部長)
田尾 友児 (三重県立紀南高等学校 学校運営協議会 委員)
竹内 勇夫 (伊勢市立小俣中学校 校長)
西岡 慶子 (株式会社光機械製作所 代表取締役社長)
※西岡委員はご欠席
藤田 曜久 (三重県立昂学園高等学校 校長)
※藤田委員はご欠席
山田 忍 (スクールカウンセラー)

ファシリテーター

山田 康彦 (国立大学法人三重大学 教育学部 教授)

<推進会議の進行概要>

会議の大まかな進行は以下のとおり

開会 15:00

- ・教育長あいさつ
- ・自己紹介 (石川委員 山田委員)
- ・事務局による資料の概要説明
「平成26年度上半期の取組評価と平成27年度の取組方向」
「平成26年度全国学力・学習状況調査の結果」

プロジェクト推進についての意見交換

- ・本年度の展開等について意見交換を実施

次回(第3回)の開催予定

閉会 17:00

(山口教育長あいさつ、県事業の説明)

冒頭、山口教育長から委員の皆さんに、本日の会議の開催趣旨を説明するとともに、平成26年度全国学力・学習状況調査結果を県教育委員会としても非常に重く受け止め、「学力向上緊急対策チーム」設置など、しっかり取り組んでいくこと等を説明しました。



また、第1回会議を欠席された石川委員、山田委員から自己紹介をしていただきました。

その後、事務局より資料に基づき、「平成26年度上半期の取組の評価と平成27年度の取組方向」及び「平成26年度全国学力・学習状況調査の結果」について説明しました。

※プロジェクトで挑戦する4つの実践取組

- ①「県民総参加による学力の向上」
- ②「地域に開かれた学校づくり」
- ③「教職員の授業力向上」
- ④「安心して学べる環境づくり」

（プロジェクト推進についての意見交換）

続いて、山田教授の司会によりプロジェクトの推進に向けた意見交換を行いました。

各委員からは、日頃の活動を通じて感じる課題や子どもの学力向上に向けた本年度の展開等について、意見や提案をいただきました。

※委員からの主な意見

○児童生徒がまずは授業内容を理解したいという気持ちになっているのか、学校現場も含めて、スタートラインに立つことが大切である。学校だけに頑張ってもらおうとしているのではなく、PTAも一緒にスタートラインに立って頑張るので、全国学力・学習状況調査結果については公表をしてほしい。特に、質問紙調査結果についても、保護者としては全て知らせてほしい。知ることで、チェックシートの推進にもつながる。

○学力が低いことが、即ち自尊感情が低いことにはならないが、授業内容を理解したいというスタートラインに立っていない児童生徒も多い。教師だけの問題でもないで、PTAの協力も必要である。



○今回の全国学力・学習状況調査の結果は危機的な状況である。小学校低学年から学力向上を集中的に取り組まないとますます悪くなる。学校だけでなく地域と連携して取り組んで行く必要がある。県教育委員会としても厳しい状況であることを保護者や地域に伝えていく必要がある。

○現場の先生は一生懸命やっているのに、何が課題なのかわからない状況である。また、10歳（小学校3年生）までに基礎的な学力をつけていく必要がある。担任の配置では3年生に重きが置かれていない。3年生までの授業がわからないと6年生の学力に課題がでてくる。

○子どもたちだけでなく、親の道德観を育むことも必要である。「私たちの道德」の持ち帰りを通して、PTAとして自分たちも学んでいこうとしている。ただ、私の周りでは、授業で使われたり、持ち帰りを行っているところはない。

○学校だけで課題を抱え込まずに、地域やPTA、子ども会などと連携して取り組むことが必要である。そうすることで、学校現場の活性化にもなるし、雰囲気もよくなる。

○今回の全国学力・学習状況調査の結果はとてもしockである。危機感が募った。私自身このプロジェクトのファシリテーターでもあるし、教育改革推進会議の座長もさせていただいているので、責任を非常に重く感じている。この結果をどのように説明したらよいかかわからない。三重大学教育学部でのこれまでの教員養成は何であったのか、その質が問われている。大学でも議論しないとイケない。

○将来若い人たちが三重県に来てもらい、人口が増え、子どもを産み育ててもらおうようになってほしいが、今回の全国学力・学習状況調査の結果によって、三重県は学力が低い県というイメージがついてしまう。



○一生懸命やっている教員の足を引っ張るような状況はどこにでもあると思う。学力の向上に向けて、教員が伸び伸び活動できるような環境づくりをしていく必要がある。

など

次回（第3回）の開催予定

平成26年度は3回の開催予定。

次回（第3回）推進会議は、本年度1年間の取組の成果の確認と検証及び翌年度の具体的な取組について意見交換を行うため、3月に公開で行う予定です。